



発行 福山民報社 福山市津之郷町 津之郷 970-1 Tel.084-952-2662 FAX084-952-2660



原水爆禁止世界大会ヒロシマデー集会 3500人

# 核なき世界へ行動を



6日、米国が広島に原爆を投下してから80年の節目となる原水爆禁止2025年世界大会ヒロシマデー集会が開かれました。集会には約3500人が参加しました。集会では広島決議「広島からのよびかけ」が採択されました。決議はロシアによる核威嚇、米国やNATO諸国の

「核抑止力」強化と核兵器近代化、東アジアでの核軍拡の動きなど、世界が核戦争の危険に直面しているいま、核兵器禁止条約が「希望の光」となっていると、「諦めるな。押し続ける。進み続ける。光が見えるだろう。そこに向かって這っていけ」というサーロイ節子さんの言葉を引用しながら、諸国政府と市民社会、草の根の運動の発展を呼びかけました。

国連軍縮担当上級代表、中満泉さんは、核兵器のない世界の希求は「今この時代に必要な希望、勇気、そして良心のともしび」であり、「諦めることなく、粘り強く、歩み続けよう」と訴えました。

日本被団協の田中聡司代表理事は「核なき世界」に逆



連帯のあいさつをする田村智子共産党委員長

行する日本政府を批判し、日本原水協と原水禁、日本被団協による初の共同アピールに「これ」ともに闘いましょう」と呼びかけました。

日本共産党の田村智子委員長は、「被爆80年の今こそ、日本政府が動く時、変わる時だ」と強調。「米国の『核の傘』から抜け出て、禁止条約に参加し、唯一の戦争被爆国として核兵器廃絶を進める役割を果たすべきだ」と強く求めました。

◇ ◇

福山市原水協の代表団として、河村ひろ子県議、みよし剛史・塩沢みつえ両市議、が世界大会に参加しました。

## 市党議員団「終戦の日」に平和訴え



街頭から訴える、左から、みよし市議、河村県議、塩沢市議

終戦から80回目を迎えた8月15日、日本共産党議員団として、河村ひろ子県議、みよし剛史、塩沢みつえ両市議は、福山駅前で終戦の日の街頭宣伝を行いました。

日本の国策として行われたかつての侵略は、多くの人命を奪い、植民地支配の下で人々の人権が侵されました。日本によるかつての侵略の歴史と、戦争の実相を語り

「終戦から80回目を迎えた8月15日、日本共産党議員団として、河村ひろ子県議、みよし剛史、塩沢みつえ両市議は、福山駅前で終戦の日の街頭宣伝を行いました。日本の国策として行われたかつての侵略は、多くの人命を奪い、植民地支配の下で人々の人権が侵されました。日本によるかつての侵略の歴史と、戦争の実相を語り

「終戦から80回目を迎えた8月15日、日本共産党議員団として、河村ひろ子県議、みよし剛史、塩沢みつえ両市議は、福山駅前で終戦の日の街頭宣伝を行いました。日本の国策として行われたかつての侵略は、多くの人命を奪い、植民地支配の下で人々の人権が侵されました。日本によるかつての侵略の歴史と、戦争の実相を語り

## 田村委員長が戦後80年の談話を発表

(田村智子委員長の戦後80年にあたっての談話を一部紹介します。)

戦後80年の終戦記念日にあたり、日本軍国主義による侵略戦争と植民地支配によって犠牲となられた内外の方々には深い哀悼の意を表します。

日本の侵略戦争によって、アジア・太平洋地域では2000万人以上の命が奪われ、植民地支配のもとで強奪・暴行・性暴力など残虐な被害と苦しみをもたらされました。侵略戦争の拡大と長期化によって、沖縄県民を巻き込んだ凄惨(せいさん)な地上戦、広島・長崎への原爆投下、各地の空襲など、日本国民の310万人以上の命が奪われました。日本兵の戦死者は6割が餓死と戦病死でした。こうした侵略戦争と植民地支配の歴史を国民共通の認識とし、未来に継承しなければなりません。

日本共産党は、日本国憲法に刻まれた「再び戦争の惨禍を繰り返さない」という不戦の誓いをあらたにし、いま進められている憲法違反の大軍拡と「戦争国家づくり」を止めるために、全力を尽くすものです。

(中略)…被爆80年の原水爆禁止世界大会では、核兵器廃絶とともに、軍拡反対、国連憲章に基づく平和の秩序の構築、排外主義反対での新たな国際連帯が大きな広がりを見せました。

日本共産党は、命がけで反戦平和を貫いてきた103年の歴史に立ち、こうした平和の世界の本流を進めるために歩み続ける決意です。